

亞くろいし 市議会だより



第10号
平成27年9月1日発行



平成27年8月9日に開催された「虹の湖ロックフェスティバル」

村上啓二議員が 表彰状および感謝状を授受



村上啓二議員が、全国市議会議長会から市議会議員として20年の長きにわたり市政の発展に尽くされた功績により特別表彰を受けました。

また、全国市議会議長会からは評議員を務めたことによる感謝状が、県市議会議長会からは退会役員に対する感謝状が贈呈されました。

目次

定例会の概要……………2

常任委員会活動報告など…3

定例会一般質問……4～6

若者の意見など……………7

視察報告など……………8

平成27年第2回定例会の概要

平成27年第2回定例会は6月23日から7月3日までの11日間にわたって開かれ、市長提出の2報告・10議案、議員提出の2議案を、慎重な審議の上、いずれも原案どおり承認・報告・可決いたしました。各議案の議決結果と各会派の賛否一覧は下記をごらんください。

第2回定例会の報告・議決結果と各会派の賛否一覧 (○は賛成、●は反対)

番 号	件 名	会 派 名					議決結果
		自民・公明 クラブ	黒石市民 クラブ	日本 共産党	高佑会	新政会	
報告第23号	平成27年度黒石市下水道事業会計補正予算(第1号)について	○	○	○	○	○	承認
報告第24号	平成26年度黒石市一般会計繰越明許費繰越計算書について	○	○	○	○	○	報告
議案第59号	黒石市介護保険条例等の一部を改正する条例制定について	○	○	○	○	○	原案可決
議案第60号	黒石市地域包括支援センターの職員及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例制定について	○	○	○	○	○	原案可決
議案第61号	黒石市景観づくり条例の一部を改正する条例制定について	○	○	○	○	○	原案可決
議案第62号	スポカルイン黒石条例の一部を改正する条例制定について	○	○	○	○	○	原案可決
議案第63号	黒石市国民健康保険黒石病院事業の設置及び経営の基本に関する条例の一部を改正する条例制定について	○	○	○	○	○	原案可決
議案第64号	青森県市町村総合事務組合を組織する地方公共団体数の減少及び青森県市町村総合事務組合規約の変更について	○	○	○	○	○	原案可決
議案第65号	青森県市町村職員退職手当組合を組織する地方公共団体数の減少及び青森県市町村退職手当組合規約の変更について	○	○	○	○	○	原案可決
議案第66号	平成27年度黒石市一般会計補正予算(第1号)について	○	○	○	○	○	原案可決
議案第67号	黒石市老人福祉センター条例の一部を改正する条例制定について	○	○	○	○	○	原案可決
議案第68号	工事請負契約の締結について	○	○	○	○	○	原案可決
議員提出議案 第3号	黒石市議会会議規則の一部を改正する規則制定について	○	○	○	○	○	原案可決
議員提出議案 第4号	老舗造り酒屋「中村亀吉」の建物保存と酒造り継続に関する要望決議の提出について	○	○	○	○	○	原案可決

議員提出議案第3号 黒石市議会会議規則の一部を改正する規則制定について

本議案は、近年の男女共同参画の状況に鑑み、地方議会においても男女共同参画を考慮した議会活動を促進するため「標準市議会会議規則」が改正されたことを受け、当市議会においても出産に伴う欠席に関する規定を設けるものです。

全会一致により原案可決



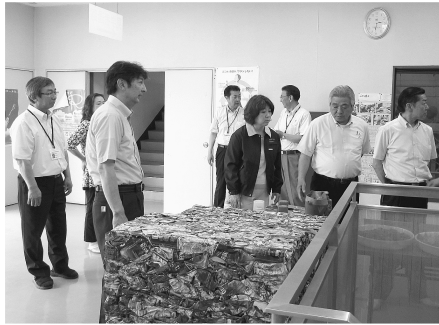
常任委員会 活動報告

平成27年7月、総務教育、経済建設、民生福祉の各常任委員会は、それぞれ委員会を開催し、今後の活動方針の決定や関係施設の視察などを実施しました。内容は、次のとおりです。

経済建設常任委員会

経済建設常任委員会（大溝雅昭委員長）は、7月1日に議事室で常任委員会を開催しました。

組織会後、初の開催となった常任委員会では、今後の活動方針について、「地区要望の確認・把握」や「議会報告会」で出た意見の中で所管する事項についての検討、「自然災害が起きた場合の対応」、「市で管理している施設の状況把握」の4つを柱とするこ



環境管理センターを視察

とに決定しました。また、西十和田トンネルなどの懸案事項についても、引き続き活動していくことを確認しました。

民生福祉常任委員会

民生福祉常任委員会（大久保朝泰委員長）は7月23日、黒石地区清掃施設組合環境管理センターと沖浦埋立処分地の現地視察を行いました。

環境管理センターは、黒石市、田舎館村、藤崎町、青森市、平川市の5自治体で構成。ここでは、現在のごみ処理能力やダイオキシンの対策などについて視察しました。

また、沖浦埋立処分地では、最終処分地の処理能力や処分地内における排水の処理状況などを視察。委員からは、「ご

み焼却時に出る飛灰は、ダイオキシンが高い物質であり、最終処分場に埋め立てられることに関して、その管理は大丈夫なのか」、「最終処分地の処理年数は」などと質問され、施設責任者は、「飛灰については、毎年ダイオキシンが基準以下であるか確認している。その他の対策として、飛灰に薬剤を混ぜて固めて処理している」、「平成14年に最終処分場の基幹改良整備工事により埋め立て容量が増加、家電リサイクル法により廃棄物の埋立処分量が3分の1以下に減少したため、残余年数があと10年ほどとされている」と回答されました。今後も委員会としては、いろいろな施設の状態を視察していく予定です。

総務教育常任委員会

総務教育常任委員会（工藤和行委員長）は7月30日、ミニボートピア黒石と黒石市民文化会館の現地視察を行いました。

ミニボートピア黒石は売上げの1割を環境整備費として黒石市に支払っており、市とも関係のある施設です。平成



市民文化会館を視察

25年から設置者が替わり、その実状がどうなっているかなどを視察しました。

黒石市民文化会館は平成20年に休館し、いまだ再開にはいたっていません。休館後、初めて施設内に入る委員もおり、改めて現状を調査する必要から視察を実施。視察終了後、委員からは「思ったよりは古さを感じないが、再開するとすれば設備等の維持費や運営費は相当かかるだろう」、「再開するならば、しないならしない。再開してすぐ閉めるわけにはいかないのですね」、「市民に現状を伝える必要がある」などの意見が出されました。今後も、財政的な考えを踏まえつつ、検討していきます。

広域連合・一部事務組合の議会報告

津軽広域連合と弘前地区消防事務組合、黒石地区清掃施設組合は、それぞれ議会を開催。

本市選出議員は、次のとおり就任しました。

◆津軽広域連合議会

- ・議長に村上隆昭議員が就任
- ・議会運営委員に後藤秀憲議員が就任

◆弘前地区消防事務組合議会

- ・副議長に福士幸雄議員が就任
- ・議会運営委員に工藤和行議員が就任

◆黒石地区清掃施設組合議会議員

- ・運営協議会委員に今大介議員が就任

第2回定例会一般質問

一般質問は、6月30日と7月1日の2日間行われ、11人の議員が市の諸問題についての質問をしました。



自民・公明クラブ
今 大介 議員
(一括方式)

問 小・中学校の適正配置について、今後のスケジュールの中に学校給食の考えはあるのか。

答 子供たちにとって、よりよい教育環境充実を図るために必要なものと認識しています。しかし、厳しい財政状況において、乗り越えなければならぬ課題が山積しているため、今すぐに実現することとは困難ですが、平成32年4月の統合に併せて、小学校での完全給食実施に向けて、できない理由を探すのではなく、どうすれば実現できるのか考えていきたいと思っています。

問 現在、3小学校で自校式給食を実施しているが、どのような方式で完全実施を考えているのか。

答 学校給食の導入については、現在、弘前市との協議は継続しながらも、財政状況などを考慮し、完全給食の実現に向け、民間の活用など実現可能な方法を、広い視野でさまざまな角度から検討して



自民・公明クラブ
工藤 俊広 議員
(二問一答方式)

問 「空家等対策の推進に関する特別措置法」の施行に伴う空き家に対する対策は。

答 実態調査の結果を踏まえ、空き家バンク等の制度構築について検討したいと思っています。

問 障がい者支援について組織体制や相談体制の充実を図るべきではないか。

答 障がい者の皆さんの活動実態を把握できるように努めます。相談体制については専門知識を持つ保健師の配属を検討します。

問 老人福祉センターについて、入浴サービスは必要要件であると思う。市民サービスの低下を伴わない方向性を示してもらいたい。

答 入浴サービスは必要要件です。週2回の入浴サービスの継続をはかり、早めの部品交換等のメンテナンスに努めます。

ます。



新国会
三上 廣大 議員
(一括方式)

問 学校給食について市として実施の考えはあるか。また、適正配置に向けた各地区説明会において、給食に関する要望はあるか。

答 平成32年度の小学校完全給食実施に向け、本市の財政状況も考慮し、民間の活用など実現可能な手法をさまざまな角度から検討しています。また、各地区説明会では、統合に向け、ぜひ給食を実施してほしいという要望がありました。引き続き小学校の完全給食実施に向け努力します。

問 松の湯交流館の利活用と今後の見通しは。また、ねぶた、よされ等のイベント時期の利活用方法は考えているか。

答 松の湯交流館は観光、コミュニティ、地域防災の拠点と位置付け、市民には文化芸

問 観光協会や音楽関係者などの方たちとの話し合いを持ちたいと考えています。また若い人達が活躍でき活気ある街づくりを実現できるように考えたいと思っています。



7月16日に開業した松の湯交流館



高佑会
高橋美紀子 議員
(一括方式)

術活動の発表や会合の場に、来訪者には街中散策の出発点や案内所として利用してもらえる施設として考えているため、祭りの際は開館時間や館内装飾、情報発信等各種イベントに合わせ柔軟に対応する予定となっています。

問 重要伝統的建造物群保存地区への対応について、中村亀吉酒造店の今後の方向性は。

答 黒石商工会議所及び各関係団体から建物保存と酒造りの強い要望を受け中町こみせ通り建物保存等対応特別チームを作り「リサ社」に対して



文書により要請しました。今後は情報収集に努めながら回答を待つ他、中町こみせ通りは市民共有の財産として今後とも守り育てていくことが責務であることから市として出来ることについて対応してまいります。

○ 学校給食早期実現について。弘前市からの提供を望んでいるのか。学校統合と同時に実施の可能性は。

○ 定住自立圏構想の協定に基づき弘前市との協議を継続中です。また、適正配置の一部変更に着手しているところであり、方針の正式決定に合わせて、給食実施のため弘前市からの提供、自校式、センター方式、民間を活用など本市に合った方法を検討しています。



自民・公明クラブ
工藤 和行 議員
(二問一答方式)

○ 小・中学校の適正配置について、統廃合に伴って発生する費用の総額と統合前後の比較について示してほしい。

○ 総額は個々の事業に流動的な部分が多く、はつきりし

た数字を示すことはできませんが、維持管理費で小学校約8千万円、中学校約2千3百万円削減できると試算しており、これをスクールバスの運行にあてる計画でしたが、貸切バスの運賃制度の見直しにより大幅な運行費増加が見込まれるため、予算を再度検討しています。財政面ではなく子供たちのよりよい環境づくりをめざした統合ではありませんが、経費を抑えながらも有効な手段がないか検討していきます。

○ 適正配置は財政面ではないということには理解するが、財源の手当てがなければ進まない。
○ 厳しい財政状況下、財源を含む諸問題について平成27年度に始まった新教育委員会制度における総合教育会議で議論するべきだと考えるかどうか。

○ 小中一貫・連携教育などを含め問題は多岐にわたっており、非常に重要で大切な事項であると認識していますので、今後も市長と協議していきます。

○ 総合教育会議において、今までの適正配置の方針のさ

らなる見直しはあり得るのか。
○ 地区住民の意向を反映させながら変更してきた経緯を考えると、想定されると考えます。



自民・公明クラブ
中田 博文 議員
(二問一答方式)

○ 黒石市回遊バス「ぷらつと号」の状況とコースの拡張について、見直しをする考えはあるか。

○ 平成26年度末で約82万人の利用者ですが、利用者の減少傾向が続いており見直しの必要性があると認識しています。総合的な視点で今後検討していきます。

○ プレミアム商品券について、販売のあり方は。
○ 予想を上回る混雑で認識が甘かったと思っています。市民に不公平感を抱かせ反省をしています。

○ 黒石市民文化会館について、多目的ホールの再開は。
○ 共有部分の屋根の防水、給排水、冷暖房等の施設整備や多目的ホールの吊り天井などの改修費、維持管理費を考えると多目的ホールだけの再

開は当面考えていません。
○ ふるさと納税について、抽選で差し上げる特典の件数は何件ほどを想定しているか。
○ 3万円以上寄付をした人を対象とする抽選で差し上げる特典を設け、対象件数は150件を想定しています。寄付をしてくれる方が増えることを期待しています。



黒石市民クラブ
工藤 和子 議員
(一括方式)

○ 人口減少対策、出会いサポート事業について、市の取り組みは。

○ 津軽南地区農業委員会連絡協議会で実施し、実績を上げています。この他、県で委託しているあおもり出会いサポートセンターの利用をPRし、どのような支援が出来るか検証します。まち・ひと・しごと創生総合戦略の中に盛り込む事業として検討したいと考えています。

○ 地域の賑わい事業について、西馬場尻の稻荷神社の松と杉の大木を、縁結びの名所にしようとして取り組む地元支援を願う。

○ 子供の医療費無料化を当面小学校卒業まで急いで実施



日本共産党
工藤 禎子 議員
(二問一答方式)



根元が絡み合う松と杉の大木

○ 根元で一緒になっている珍しい木で観光資源であると思います。可能な協力をしていきます。
○ 一級河川十川の整備に対する市の対応は。
○ 県ふるさと水辺サポーター制度は、県が市の意見を参考にして認定し、サポーター、県、市の三者で覚書を締結し、その後実際にボランティア活動を行うこととなります。市としては出来る範囲内で協力しています。



していただきたいが、考えはあるか。

○ 今後、入院のみ、通院のみの段階的な拡充が可能かどうか、検討したいと考えています。

○ 黒石病院の医師確保のために「院内開業制度」の導入と研修医制度を充実させ黒石病院に残れるよう環境を整備すべきでは。

○ 「院内開業制度」は新たな医師確保対策として研究していきたいと考えています。また、研修医の終了後の後期研修プログラムの充実や勤務条件の向上等を検討したいと考えています。

○ 家庭ごみ袋について、料金を引き下げてはどうか。

○ ごみの減量化とリサイクルの促進を継続するためにもごみ袋の値下げは考えておりませんが、10月頃に試験的に10リットルのごみ袋を10枚で150円前後で10万枚製造することを考えています。

○ 指定管理者制度の導入施設に、社会保険労務士による「労働条件審査」を導入し、モニタリング制度を位置付けてはどうか。

○ 所管課でしっかりと、実地

調査や報告を求め、適切に実施している中で、現時点では社会保険労務士等を入れる考えはありません。



自民・公明クラブ
大溝 雅昭 議員
(一問一答方式)

○ ゴミの減量化、リサイクルの状況は。また、最終処分場の状況は。

○ ゴミの減量化を目的とした家庭ごみの有料化は実施から7年が経過しました。当初は減量化が進みましたが、ここ数年は横ばい状態となっています。一人当たりの排出量は954kgで県内20位、リサイクル率は13・4割で県内21位です。

○ 最終処分場は約10年で埋め立て完了となる予定と伺っています。

○ B-1グランプリin十和田への取り組みについて、当市の対応は。

○ 10月3・4日に十和田市で開かれるB-1グランプリは地域活性化を図ることを目的としています。今年は全国から62の団体が参加し、本市から「黒石つゆやきそば」HA

PPY「恋恋ジャー」が参加します。市では職員を数名派遣します。また、県の物産展示にも協力します。

○ 道路交通法が改正され自転車規制が強化されるが、児童生徒の自転車事故の状況と対策は。

○ 18才以下の児童・生徒の自転車事故件数は平成24年度8件、25年度13件、26年度4件です。規制強化の学校への周知は、今後の警察庁や文部科学省の動向及び情報を踏まえながら、積極的効果的に行います。



自民・公明クラブ
村上 啓二 議員
(一括方式)

○ これまで黒石市議会として上水道の契約水量適正化を水道企業団に対して求めてきたが、市の対応と今後の見通しは。

○ 7月7日に担当部課長会議が開催され、各加盟団体から適正水量の報告がなされ、それを元に適正水量に対する検討を行うことになりました。平成30年に見直しが行われる予定となっていますが、場

合によっては前倒しの日程で進むことも考えられると思います。

○ 西十和田トンネルの今後の展開と通年観光について、市の考えは。

○ 西十和田トンネルについては本市としては必要不可欠であると考えています。昨年、西十和田トンネルシンポジウムを本市で開催させていただき津軽圏域と十和田市、八戸市のパネリストなどからさまざまな意見が出されました。今後は議会や周辺自治体などと歩調を合わせて取り組み、津軽と南部の通年観光並びに経済交流が図られることが重要と考えます。



黒石市民クラブ
佐々木 隆 議員
(一括方式)

○ 6次産業への本市の取り組みについて、意欲ある農家が6次産業の取り組みを希望する場合、情報等を提供し、指導を受けられる相談窓口はあるのか。また、あるとすればどこに問い合わせをすればよいか。

○ 県サポートセンター相談

窓口があり、認定書の計画づくりから事業化を支援しています。食産業勉強会や商談会、出店補助を行っている他、市の広報による優良事例の紹介や情報提供など、意欲ある事業者の支援をする体制を強化していきます。

○ 中山間地域のりんご園の再整理について、農業者から規模拡大の声や、後継者不足により農業従事者が高齢化して、傾斜地での作業中の事故等が聞かれるが、再整理を実施するとした場合の事業と、その補助の割合、事業採択要件は。

○ 畑地域総合整備事業担い手支援型事業があり、支援率は国が5割、県が2割で市、農業者の地元が2割。受益面積30畝以上で、補助金で所得した財産の処分など交付条件があります。

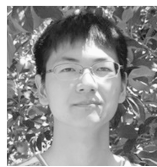
○ りんご農家後継者の育成について、農家の支出を軽減するために苗木養成技術を持つ後継者の育成が必要だと思われるが、市の考えは。

○ 財団法人青森県りんご協会黒石支会などと連携し、後継者育成に努めたいと考えています。



18歳選挙権 若者から意見を聴きました

来年の参議院選挙から、18歳からの選挙権が認められることとなります。このことについて当事者となる高校生や若者から、「18歳からの選挙権について」、「若者の選挙認識について」、「政治家への関心について」、「政治家への意見」、「黒石に望む事」などを中心に聴いてみました。



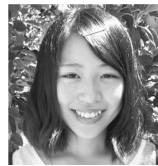
◆高嶋 裕治さん (20歳)

政治の状況を見て、自分なりに感じて、自分なりに感じているのは、若者向けの方が多いような気がします。選挙に関しては、投票者の圧倒的多数が高齢者なので、若い自分の意見は反映されないだ



◆工藤 諒さん(高校3年生)

選挙は行くべきだと思います。ろうと思う所もありますが、選挙は行くべきだと思います。若い人も日本の現状や政治をもっと知る努力をしないと、いけないと思います。



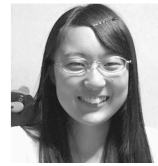
◆千葉芙由香さん(高校2年生)

選挙カーで訴えているときは、本当に頑張っているなと思います。応援もしたいと思うけど、その後何をしているのかがよくわかりません。18歳の選挙権は、せっかくできた制度なので行くべきだと思いますが、政治内容がよくわかりません。



◆秋元 綜弥さん(高校3年生)

政治家に対しては全議員がやるべきだと思います。報酬をもらっているのでもっと魅力的になる必要があ



◆稲葉 碧さん(高校3年生)

18歳からの選挙権は正直早いような気がしますが、自分の一票で大事なことが決まるとこの機会に政治の事を知りたいと思います。政治は、良い事が見えてこないイメージがあります。消費税の値上げや上がった後にどうなっているのかなど。また、政治家の謝罪会見だけがテレビで放送されているように感じます。

この他にもいろいろ意見がありました。政治家のモラルや活動をもっとしっかりとしてほしいという反面、自分たちも政治に関心を持たないといけないという総論や、SNSなどの活用で情報を知りたいという意見も多くありました。学校からの発信力も重要な役割となると思います。何よりも政治が魅力的にならないければなりません。

「青年と議員が語り合う会」で さまざまな意見を交換

黒石青年会議所が主催する「青年と議員が語り合う会」が、7月16日に開催され、14人の議員が参加しました。

この語り合う会では、青森中央学院大学の佐藤淳先生の進行で、「黒石市が人口減少問題にどう立ち向かっていくか」をテーマに、高校生から40歳までの青年が気楽に語り合う「ワールドカフェ」という形式で意見を交換。

参加者の皆さんからは、社会保障制度の充実や子育て支援の拡充、雇用問題の改善を求める声の他、若者の意識改革の必要性や、自らが愛する黒石に関する出来ることを探



意見交換の様子

し、機会を見つけてPRするなど、さまざまな意見や考えがだされました。

参加者から感想を聴くと、金融機関勤務の20代女性は、「このような企画に参加するのは初めてで仕事においても自分自身においても非常に勉強になりました。第2回目を開催してほしいと思います。参加しやすい街コンのような企画があればいいかも！」。

10代男子高校生は、「市議会議員の方々との語り合うことができ、黒石市を想う気持ちが高まり参加して本当に良かった。卒業後は県外に進学する予定ですが誇りを持って黒石をPRしていきたい」等の声が寄せられました。

今回参加してみて、将来を担う青年たちの想像以上の関心の高さや本市の事を真剣に考えてくれていた事がとても頼もしく思えました。議員一同、なお一層、本市の将来のために取り組んでいきたいと思えます。



●行政視察報告

黒石市民クラブ

(福士 幸雄・工藤 和子)
(佐々木 隆・後藤 秀憲)

視察先

新潟県佐渡市
(H27年7月
6～8日)

【「人口減少対策(出会いサポート事業)」について】

佐渡市の出会いサポート事業は、平成20年から実施され、市主催のイベントを年2回開催。これまで21回(男407人・女325人)の開催で110組のカップルが誕生し、11組のカップルが結婚しています。今年度からは、結婚サポーター事業を設立し、情報収集、イベント、相談、助言を行い成婚に導いた際には、1件当たり8万円を支給。また、企業運営に取り組む団体には、10万円の補助金を出しています。

【「伝健群保存地区宿根木」について】

宿根木は、寛文12年西回り航路の寄港地となったため、船主や船大工などを中心に北前船稼ぎの村として発展してきました。平成2年に伝統文化と自然環境を次世代に継承することを住民の総意として保存地区に認定されました。全体的には質素ですが48戸の集落があり非常に趣と深みのある集落です。毎年3,000万円の予算が投入されています。



●議員活動報告

自民・公明クラブ

(村上 隆昭・工藤 俊広)
(大溝 雅昭・大久保朝泰)
今 大介・村上 啓二

青森県議会議員

鳴海恵一郎

視察先

北海道恵庭市
北海道篠路町
(H27年7月
14日・15日)

【「バイオコークス関連施設の視察」について】

北海道恵庭市のバイオコークス研究所と篠路町破砕加工場を視察しました。本市においても実用化に向けた取り組みが始まることから、バイオコークスの第一人者である井田教授のもとを訪れ、これまでの取り組みや本市に対する今後の展望などを伺いました。バイオコークスは、飲料工場などから大量に排泄される「茶かす」をはじめ、ほぼすべての廃棄物から製造が可能な新たな燃料として注目を浴びています。近畿大学では、2008年北海道恵庭市に量産型の実験センターを開設。この他にも大阪府高槻市、新潟県、長野県などでも取り組みが行われています。研究所所長で近畿大学教授の井田民男氏は、黒石市には原料となる廃棄物の製造に不可欠な日本でも最高レベルの乾燥技術を持っている企業があり、当研究所でも大変お世話になっていると感謝していました。本市は、来年度からリンゴの搾りかすや剪定枝からのバイオコークス製造に取り組む予定となっています。



●議員活動報告

自民・公明クラブ

(中田 博文・工藤 和行)
(北山 一衛)

新政会

(三上 廣大)

視察先

新潟県長岡市
山形県酒田市
(H27年7月
27日・28日)

【「栃尾の雁木通りと酒田市の本間別邸視察」について】

新潟県長岡市栃尾と山形県酒田市を視察してきました。長岡市栃尾の市街地には、「雁木通り」という、本市のこみせ通りに似た街並みがあります。栃尾は栃尾城の麓にある城下町で、元々商人の町でしたが徐々に職人町も連なり、雪国の生活の知恵から生まれた雁木と共に発展してきました。それぞれの建物から張り出している雁木部分は、各家々によって特徴ある形となっており、約3.5*もの長さで続いています。長岡市では、この雁木の保存・新築に新潟大学の学生なども参加し「官、民、学」三者連携による雁木の保存と観光の両立に取り組んでいます。

酒田市では、旧庄内藩の豪商本間家の別邸である建物「清遠閣」と庭園「鶴舞園」を視察しました。館内の展示品や、どの季節に來ても楽しめるような庭園の工夫・管理には費用がかかるとのことでしたが、それに見合った集客力があり、また、何より地元の方々から愛されていることが伝わってきました。



黒石市議会事務局
〒036-10396
黒石市大字市ノ町1番地1号
FAX 0172-5317410
電話 0172-52129

お問い合わせ先

委員長 工藤 俊広
副委員長 大久保 朝泰
委員 高橋 和子
委員 今大介
委員 三上 廣大

議会だより
編集特別委員会

市民の皆様から、尊い一票により当選させて頂きまして早4ヶ月が経ちました。
6月議会も経験させて頂き、議員としての重さと責任を実感致しております。
また、この度議会だより編集特別委員会委員を拜命し、委員の一人として市民の皆様へ議会、議員の活動、今後の取り組み等これまで以上にわかりやすく、議会を身近に感じて頂けるような議会情報誌を目指し、一杯取り組んでまいりますので、皆様からのご意見、ご感想もどんどんお寄せ頂けたら幸いです。
三上 廣大

編集後記

